

① 農村資源の利活用の推進

県内には森林や水、農地などの地域資源が豊富に存在しており、これらの資源を保全するとともに、エネルギー等への有効活用が期待されていることから、農家、地方自治体や関係団体等が連携し、自然エネルギーの生産及び利用を促進します。

【達成指標】

項目	平成22年度	平成29年度 (目標)	設定の考え方
農業用水を活用した小水力発電の容量	220kW	2,200kW	目標年までに整備される県内の農業用水による小水力発電の設備容量

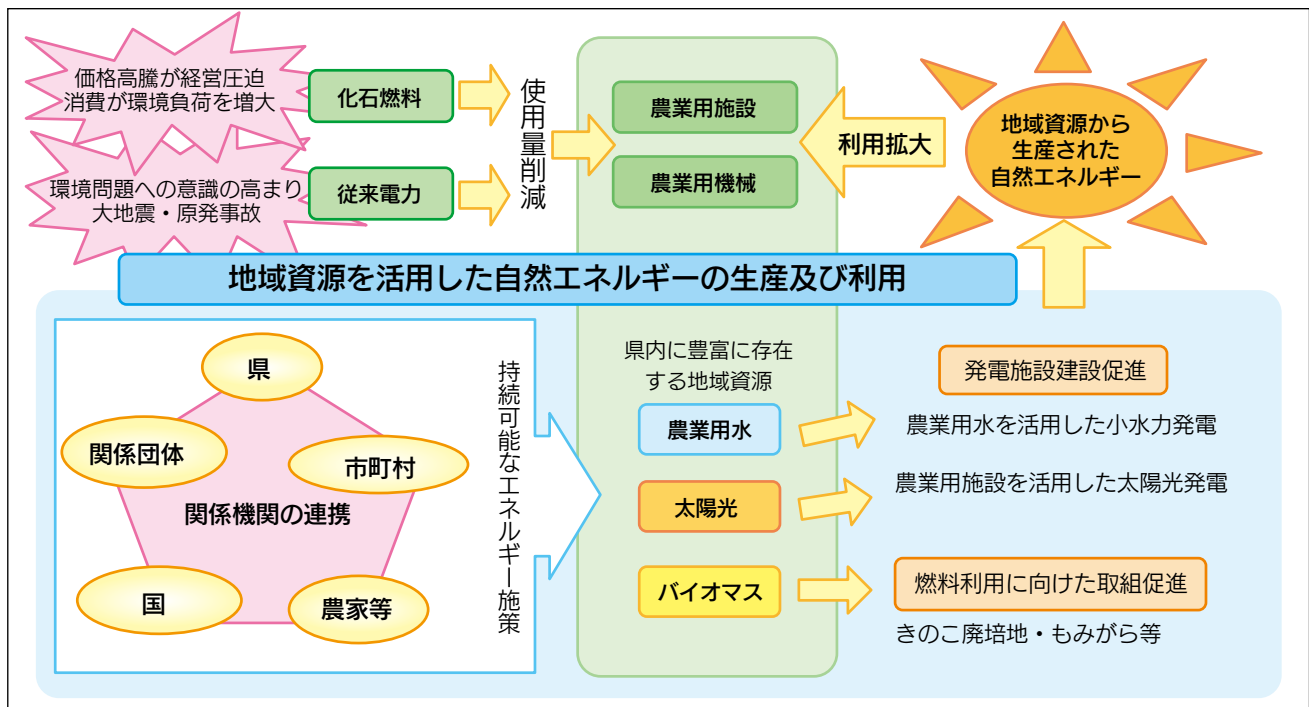
【目指す5年後の姿】

- ◆地球温暖化問題やエネルギー施策への県民の関心が一層高まり、各地で省エネルギー化や農業生産とともに発生するバイオマスの活用に向けた取組が進んでいます。また、こうした取組や農地、農業用水、里山などの資源を有する農村の価値が見直されています。
- ◆太陽光や農業用水による発電施設の建設が進み、電力利用や余剰電力の売電によって農業水利施設等を維持管理する地域が増えています。
- ◆きのご廃培地等を使ったペレット製造や燃焼機器等の低コスト化が進み、地域と民間事業者との連携により、農業系バイオマスの収集・処理・燃料利用の一連の取組が始まっています。

【展開する施策】

- **農村資源を活用したエネルギー生産の普及と利用促進**
 - 各種団体と連携し、調査研究や研修会等を実施することにより、エネルギー等の具体的な活用に向けた検討や普及啓発を進め、自然エネルギーの利用を促進します。
- **小水力発電など農業水利施設等を活用した自然エネルギーの導入促進**
 - 各種補助事業を活用して初期投資を軽減するなど、施設の建設を支援します。
- **農業系バイオマスの利活用の促進**
 - バイオマスとして農村に広く存在する、きのご廃培地、もみがら等の燃料化については、収集方法、燃料の生産コスト、燃焼機器などの設備導入コスト等、各地の導入事例などを調査し地方自治体等に情報提供するとともに、燃料化や燃焼機器の低コスト化技術の開発状況を踏まえた、地域、民間事業者などによる取組を促進します。

【自然エネルギーの生産・利用】



❖ 農業水利施設を活用した自然エネルギーの有効利用

町川発電所 (大町市)

大町市が建設した町川発電所は、豊富で安定した水量を確保できる農業用水路「町川用水」から取水（最大 1.1 m³/s）し、急峻な地形（有効落差 16.2 m）を利用して最大出力 140kW の発電を行っています。発電に使用した水は全て町川用水路に戻るため、農業用水に完全従属した水路式（流れ込み式）発電所となっています。

また、発電した電力は、近くにある市のし尿処理場で利用されています。

このような、農村資源が形を変えて地域で有効利用される取組に注目が集まっています。



【豊富な水と急峻な地形を利用した小水力発電】